

入田小学校
「学力向上実行プラン」

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
 - ・書く場面、他者の意見を取り入れ自分の考えを深める場面
 - ・学びを振り返る場面の工夫
 - ・発問の工夫
- 自主学習ノートの工夫による家庭学習の充実

学力向上推進員
1年担任

委員 校長
教頭 特別支援学級担任
5年担任 6年担任
特別支援学級副担任

2年担任 3年担任 4年担任
学級担任補助
養護教諭

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書き、四則計算等の基礎的な力は概ね定着してきている。 ●個人差が大きく、基礎的事項が十分身につけていない児童もいる。 ●文章を正確に読み取る力や書く力が弱い児童もいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、様々な学習場面で活かすことができる。 ・幅広い知識を自ら求める態度をもっている。	・朝のスタディタイムを有効に活用し、漢字、読解、作文、新聞の要約をする。また、算数の応用問題や文章問題等の力をつけるための学習を継続して取り組ませる。 ・優れた日記や作文を読んだり、掲示をしたりして、児童に紹介をする。また作文読本に投稿する。 ・デジタル教材や辞書を活用し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。	・朝のスタディタイムや宿題を有効に活用し、漢字、読解、作文、新聞の要約をする。また、算数の応用問題や文章問題等を解く力をつけるための学習を継続する。 ・デジタル教材や辞書を活用する。	・朝のスタディタイムのドリル学習等により、基礎的な力は身につけてきた。 ・デジタル教材は、国・算・社・理の指導においては、ほぼ活用できている。 ・言葉の意味の捉え方が不正確である。 ・デジタル教材はよく利用できたが、辞書はあまり活用できなかった。	・読書習慣のさらなる定着を測る。 ・日記のテーマを教師が決めたり、自分で決めたりして自分の考えを書かせる。 ・継続的に辞書を活用する。 ・言葉の定義を定着させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の意見をしっかりと聞くことができる児童が多い。また、自分の考えを積極的に発表できる児童が増えてきている。 ●場に応じて臨機応変に自分の考えを表現する力はまだ十分でない。 ●いくつかの資料から情報を選択し、筋道を立てて文章で表現したり、解決したりすることに課題がある。	・自分の考えを、根拠や理由を明らかにしながら表現することができる。 ・他者の意見を取り入れながら、根拠をもとに多面的・多角的な自分の意見を持てる。 ・資料からわかることを根拠にして、考えを表現する。	・ホワイトボードや付箋、タブレット等を用いて、考えや思いを述べたりする場面を増やす。 ・他者の考えを踏まえ、自分の考えを付け加えて話し合う活動を設定する。 ・多面的・多角的な考えが持てるように発問を工夫する。 ・視点を提示して、振り返ることができるようにする。 ・新聞からキーワードを見つけさせる。	・ホワイトボードやメタモジを使って、自分の考えを書き、友達と比べる機会をもつ。 ・書くことに慣れさせるため、文章の組み立て方や表現技法を教える。	・ホワイトボードやメタモジを使って、自分の考えを書き、友達と比べる機会をもつ。 ・パドレッドを導入し、思考を深める手がかかりとなった。 ・ワードやメタモジで文章を書くことに慣れてきた。 ・自分の意見はよく言えるようになってきたが、他者との共通点や相違点を見取る力が不十分だった ・語彙数が少ないため、多様な表現ができていない。	・機会を捉えて、話し合い活動を積極的に取り入れる。 ・単元終了時毎に、振り返り、今後の改善点を確認する。 ・他者との考えを比較する機会を設ける。 ・理由をつけて、自分の考えを述べると同時に、他者との相違点を見つける。 ・語彙力を増やすため、機会を捉え、言葉を使ったゲームなどをする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に、まじめに取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自ら課題を見つけ、主体的に取り組むことに課題がある。 ●不得意な学習内容に対して、計画的に取り組むことに課題がある。	・決められた学習や自主学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題の解決に生かすことができる。 ・既習の学習を生かし、他教科の学習や生活を関連づけることができる。	・「とくしま授業技術の基礎基本」にある、ノート指導を徹底するとともに、ノートには、自分の考えや気になること、先生の話で聞いたことなどを書く欄を設ける。 ・タブレット学習を活用して、主体的な学習への意欲を高めさせる。 ・各教科の関連事項を積極的に活用する。	・出前授業や校外学習を多く取り入れ、豊かな体験をさせる。 ・タブレットで写真を撮ったり、資料を作成したりして一人一人が楽しみながら学習できるようにする。	・調べ学習に積極的に取り組むことができた。 ・ICT機器の様々なアプリを活用し、自分なりの作品を仕上げることができている。 ・既習事項を活用する場面において、適切な言語や方法を選択することが難しい。	・ノートの使い方や自分の考えをまとめて書く方法を引き続き指導する。 ・知的好奇心が旺盛な児童を育てるため、疑似体験や読書活動を盛んにするように心がける。

令和6年度 学力向上ロードマップ

